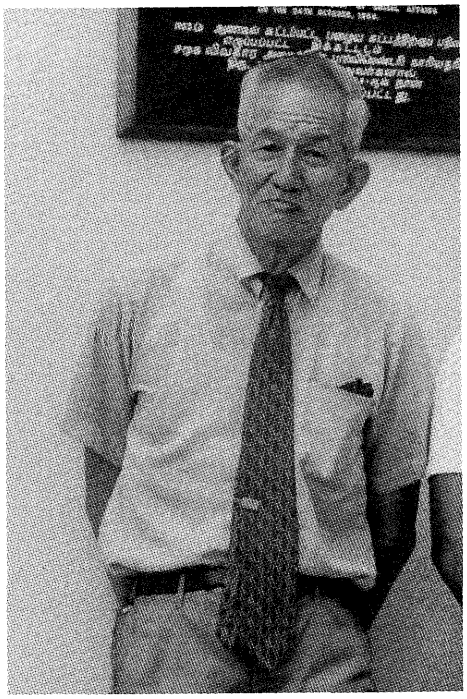
追 悼

常谷幸雄博士を悼む
Professor Dr. Yukio Jotani (1904−1997)



東京農業大学名誉教授常谷幸雄博士は平成9年(1997)11月5日，急性心不全により亡くなられた．享年93歳．博士は明治37年(1904)3月31日に金沢市で生まれ，日本獣医学校(後の日本獣医畜産大学)を経て，大正13年(1924)4月東京農業大学予科に入学し，昭和4年(1929)3月に同学農学部を卒業された．在学中三宅一郎教授のもとで植物病理学を専攻し，*Fusarium*による萎調病，*Sphaceloma*による瘡痂病の研究に従事された．研究成果の一部は『コロシントウリの萎調病に就いて』(本誌**29**: 279−281)，『マメキンカンの瘡痂病に就いて』(本誌**32**: 92−95)として本誌にも発表されている．

これらの研究を通じて宿主となる植物についても関心を深められたが，特に牧野富太郎博士が「東京より極手近な伊豆諸島の様々な処でさへも今だに手が届かないで，其の植物は全く暗黒の裏に葬り去られている様な有様である」と嘆じられたことに感銘決起し，伊豆諸島全11島の植物相を詳細に調査された．博士の採集品にもとづいて，佐竹義輔，中井猛之進，本田正次博士らが同諸島から数多くの新植物を発表した．また，この研究により東京農業大学より学位を授与された．

1968年からはフヨウ属の分類学的研究に着手され，研究成果の一部が『西南日本に自生するサキシマフヨウ(新称)について』(本誌**59**: 214−222)などとして発表されたが，大半は未完のまま残された．

博士の採集された標本は東京農業大学に収蔵されるが，タイプや典拠標本は東京大学や国立科学博物館に保管される．博士の生前の植物分類学への貢献と指導に感謝申し上げ，心からご冥福をお祈り申し上げる．

(中村武久，大場秀章)